

第356号 平成29年1月

# 東京都農業会議情報

編集及び発行 東京都農業会議

立川市柴崎町3-5-24  
TEL 042-525-0780

新年にあたって



青山会長

東京都農業会議会長 青山 侑

道連れ解除について、具体的な方向性が提起されました。また、山村・島しよの農業では、生産・流通条件が厳しい中で農地の有効利用と生産振興のため、農業委員会活動の重要性が高まっております。

あけまして  
おめでとございます  
昨年は、改正農業委員会法が4月に施行され、農業委員が区市町村長による選任となり、農地利用最適化推進委員が新設されました。また建議活動にかわり、農地利用の最適化についての意見の提出という重要な活動が加わりました。私も東京都農業会議も一般社団法人となり、従来以上の活動を行って参ります。

都市農業に關しては、都市農業振興基本計画が閣議決定され、昨年末の税制改正大綱では、生産緑地の下限面積と

国民の農業や農地への関心が高まり、農産物の生産技術や安全なまちづくりへの社会的貢献などが評価される一方、経営や農地利用などへの辛辣な意見もあります。農業経営が継続され、担い手や生産振興対策、より良い制度や税制、農業施策を構築できるように尽力して参ります。

\*\*\*\*\*

## 農業委員会活動推進フォーラム開く

都農業会議は、このほど農業委員会活動推進フォーラムを開き、農業委員など約300人が参加しました。

参加しました。

最初に青山侑会長から、都市計画と都市農業を巡る情勢や、東京農業の特徴な



東京農業の新たな展開について講演する後藤光蔵氏

どについて、報告しました。農水省都市農業室の渡邊新一郎課長補佐からは、都市農業振興基本計画と施策の検討状況について説明しました。

## 農業参入した法人や雇用を活用している経営などを研究

農業委員・最適化推進委員現地研究会

都農業会議は、12月20日に、農業委員・最適化推進委員現地研究会を開きました。

4月1日に施行された新たな農委会法では、必須業務として農地の利用促進や新規参入の促進などに取り組むことが規定されました。都内においてもすでに農地利用最適化推進委員を委嘱した農委会があることから、

武蔵大学の後藤光蔵名誉教授は、東京都農林・漁業振興対策審議会の答申について、講演しました。最後に、都主税局の岡島茂課長は、固定資産税や農地の評価・課税について説明しました。

担い手の規模拡大や新規参入の状況などについて現地研究しました。当日は、雇用を活用し規模拡大を進める認定農業者の笹本輝明さんと近藤剛さん、また新規参入した生活クラブ生協・東京の状況、さらに青梅市で新規就農した繁昌知洋さんを支える農業委員の支援や活動などを研究しました。

## 第58回東京都農業委員・農業者大会を開きます

都農業会議と農委会地区協議会・連合会は「第58回東京都農業委員会・農業者大会」を平成29年3月2日(木)、午後1時よりKORTORIホール(昭島市民会館)で開催します。

大会では、国に対する要望事項や、農業委員会活動



「農業委員さんのおかげで青梅市で新規就農する夢が叶った」と話す繁昌さん(中央)と新規就農を支援する石井委員(左)と加藤委員(右)

### 農地利用最適化に向けた施策推進など決議

#### 東京選出の国会議員と意見交換を実施

全国農業委員会会長代表者集会

12月1日、(一社)全国農業会議所(二田孝治会長)の主催により、全国農業委員会会長代表者集会が港区のメルパルクホールにおいて開かれました。東京からは21区市町の農業委員会長らが出席しました。



国会議員と都市農業について活発に意見を交換した

第一部では、パネルディスカッションが行われ、岩手県北上市や栃木県栃木市、福岡県糸島市などの農業委員会から農地利用の最適化に関する先進的な取組について発表されました。

第二部の協議では、「農地利用の最適化に向けた施策推進に関する要請」や「新・農地を活かし、担い手を応援する全国運動の推進に関する申し合わせ」など、情報提供活動の一層の強化に関する申し合わせなどが全会一致で決議されました。

集会の終了後、東京の農委会長らは衆議院第一議員会館に移動し、東京都選出の国会議員との意見交換会に参加しました。

#### 常設審議委員会だより

##### 協議

①平成29年3月2日(木)

開催の第58回東京都農業委員会・農業者大会の開催要領および大会の記念行事として行う第43回農業委員会等功労者表彰の受賞者(農業委員功労者表彰状8名、職員感謝状11名、農業功労者感謝状

**第9回常設審議委員会**  
平成28年12月16日にJ A東京第1ビル会議室にて開催し、状況は次のとおり。  
**報告**  
①11月15日～12月15日の業務報告および会議開催計画を説明。②11月の転用許可状況を東京都が報告。

ました。

この意見交換会には7人の衆議院議員が出席し、今年5月に閣議決定された国の都市

#### 農業者年金の加入推進活動や

##### 制度の概要など研究

##### 農業者年金制度推進研究会

都農業会議は、11月24日に農業者年金制度推進研究会を開き、農委会・J Aの職員、加入推進員(農業委員)など29人が出席しました。

まず、農業会議の職員より都内の加入推進の状況などを説明し、その後東京農業大学の五條満義准教授による講演を行いました。都市における農業経営の特徴を踏まえた上で、家族経営協定の意義や役割、農業者年金との関係性について、写真や図を使い、分かりやすく説明をしました。

農業振興基本計画の実現に向けた課題や進捗状況などについて具体的に意見を交わしました。



農業者年金について説明する藤本紀美香氏

次に、特定社会保険労務士の藤本紀美香氏が『公的年金制度の概要と「農業者年金」について』と題した講演を行いました。

藤本氏は「現在は確定拠出年金の人氣が高く、企業年金でも確定拠出型が多くなってきている。農業者年金も確定拠出型で時代に即した制度となっており、農業者にとつてメリットの多い、魅力的な年金である」と専門家から見た制度の特長について話しました。

#### 都内全域で農地利用状況調査を実施

##### 重点的な農地パトロールに取り組む

##### 農地管理・流動化推進月間

都内各区市町村は、8月から10月を農地管理・流動化推進月間と設定し、農地パトロールをはじめ、農地利用状況調査(農地法第30条)などに取り組みました。

特に、農地利用状況調査については、農業委員が日常生活として地域の全農地を見まわることとしており、本月中旬には、農地利用状況調査に合わせ、農地管理・流動化推進月間(小川芳文会長)は、農業委員全員で生産緑地や納税猶予適用農地などの重点地をマイクロバスでまわり現地調査をし、同日中に調査結果について話し合っています。

また、日の出町農業委員会(神田功会長)は、調査を農地の貸し手の発掘につなげ、今年度は約1ヘクタールの貸借の実績を上げました。

### 法人化による農業経営や

### 法人の農業参入について研究

都農業会議は、12月15日に青梅市で、12月22日に八王子市で、農業生産の法人化と農地の貸借・雇用の活用研究会を開きました。

本研究会では、法人化による農業経営のメリットや留意点また法人の農業参入について研究するため、両日とも、まず都農業会議より①農業経営の法人化、②法人による農地の権利取得、③農の雇用事業などについて説明をしました。続いて「農業事業体を法人化するメリットと留意点」をテーマに本木賢太郎弁護士による講演を行いました。

15日の研究会では、その後、青梅市に一般法人として農業参入した(株)TYファームの社員3人より、農業に参入した経緯やこれから目指す経営や取り組みなどについて報告がされ、有機農産物の生産に取り組む同市今井の自社農場を見学しました。

22日には、農地所有資格法人の(株)アーバンファーム八王子から「同期3人組の農業奮闘記」と題し、報告がされました。(株)アーバン

農業生産の法人化と農業の貸借雇用の活用研究会

ファーム八王子は、会社の同期3人が早期退職し、農業を目指し設立した農地所有資格法人で、続橋昌志代表取締役からは会社を退職し、農業を目指した経緯や農業研修の状況、八王子市で農地を借り入れるまでの苦労や同市小比企町の研修先の農業者などの協力のもと現在も農業生産に取り組んでいることなどが報告

### 東京都農業経営者クラブ

### ラオスの農業事情を視察

東京都農業経営者クラブ(眞利子伊知郎会長)は、11月28日～12月3日に、ラオス農業事情視察を行いました。



カブソンファームの野菜栽培を視察した

されました。講演後は、農場を見学し、3人から栽培の工夫や今後の取り組みの予定などについて話を聞きました。



(株)アーバンファーム八王子の農場を案内する続橋昌志代表取締役

ラオスの国土面積は、約24万km<sup>2</sup>で日本の本州ほどの面積がある一方、人口は651万人(2012年ラオス統計局)と少数です。1953年にフランス領からラオス王国として独立し、1975年には王政が廃止され、ラオス人民民主共和国となりました。ラオスでは、蒸したモチ米が主食のため、モチ米の自給農家が多く、国内の耕作地の約9割が稲作となっており、輸入品であるため、肥料・農

薬費が高く、結果的に有機栽培が行われています。

鉱物資源や水力発電などの主要産業がある中、ラオス南部の国土開発が進展しない原因のひとつとして、ベトナム戦争時の地雷が未だ多く残っていることが挙げられます。

今回の視察では、ラオス北部にある首都ヴィエンチャンと市街地がユネスコの世界遺産に指定されている古都ルアンパバーンで、2戸の農業経営、市場などを視察しました。

はじめに、ヴィエンチャン市内で大規模経営を営むカブソンファームを見学しました。

カブソンファームは、経営主であるカブソンさんの父親が社長を務める会社の農業部門を担っており、建設や不動産、ITなどの部門も親族で経営しています。

農業部門の従業員は24人で、約30ヘクタールの農地で薬物やキノコの施設栽培、約20ヘクタールの池でナマズやテラピアなどの魚の養殖を行っており、全てを市場へ出荷しています。農地の規模拡大を進めるため、国から70年の契約で1ヘクタールあたり年間100ドルの賃貸料で農地を借りています。次に、ルアンパバーン市内



無農薬栽培農家での参加者の集合写真

で無農薬栽培を行う農家を見学しました。約30アールの農地で、葉物を中心とした無農薬野菜、鶏、うさぎの生産・出荷に家族7人で取り組んでいます。

無農薬野菜は、一般の野菜より倍の価格で取引されています。栽培に手間がかかり収穫量も少ないため、市場へは週2回のみ出荷しています。行政からの依頼で平成26年に無農薬栽培をはじめ、栽培方法などの指導を受けて、鶏やうさぎの糞を堆肥として利用するなど、現在の循環型の経営を確立しました。

この他、野生の蘭を育成・培養している農園やモチ米の焼酎造り、手すきの紙造りが行われている村などを見学し、5日間の日程を終えました。

### 農業者と消費者で「食と農セミナー」開く

東京都農業会議  
東京都農業経営者クラブ  
東京都消費者月間実行委員会

12月9日、中野サンプラザで都農業会議と東京都農業経営者クラブ（眞利子伊知郎会長）、東京都消費者月間実行委員会（山下陽枝会長）の共催により「食と農セミナー」が開催されました。

農業者と消費者が交流しながら共に学ぶ場をつくろうと企画されたもので、都内の農業者と消費者あわせて約110人が参加しました。

前半はフリーアナウンサーで農業ジャーナリストの小谷あゆみさんを講師に迎え、「よろこびと感動を東京の農業から」畑でイキイキ、楽しい発見」をテーマに講演を行いました。



食と農セミナー 小谷あゆみさん講演

### 市内の野菜や花の生産現場を見学

農ウオークイン羽村



羽村市産の新鮮な野菜を収穫した

小谷さんは、都市農業の良いところとして農業の「見える化」が容易な点をあげ、都市住民に農産物だけでなく体験と感動を提供する取組を進めた。

羽村市農業委員会（宮川修会長）は、このほど西多摩農業協同組合と協力し「農ウオークイン羽村」を開催しました。

今回で11回目の開催で、市民を中心に42人が参加しました。市内の農業委員3人の圃場をまわり、ネギや大根、キャベツなどの収穫体験やパンジー・ビオラの生産現場の見学を行いました。

めることを提案しました。後半は会場内を9つのグループに分け、それぞれのグループで農業者と消費者が自由に意見交換を行いました。

参加した消費者からは「生産者から直接いろいろな話を聞くことができて良かった」といった感想が聞かれました。

その後、昼食会が開かれ市内産の小麦を使用した手作りうどんや米や野菜が振る舞われ、参加者は地元の味を楽しみました。

### 市民向けに農業通信を配付

福生市で産業祭が開かれる

福生市は、このほど同市産業祭にて市内の農業や農業委員会、農業関連イベントや直売所などの情報をまとめた農業通信を200部配布しました。



産業祭では市内産の野菜などが売られ、多くの客で賑わった

農業通信はこれまで、農業者向けに発行していましたが、これからは市民にも福生市の農業について広く知ってもらおうと、今回配布されました。産業祭では、農作物の販売も行われ、同市産の野菜などを求め、多くの客で賑わいました。

### 武蔵村山市と瑞穂町の農業を見学

東京農業を巡るバスツアー開く

全国農業体験農園協会（加藤義松理事長）は、12月12日に農業体験農園の利用者を対象とした「東京農業を巡るバスツアー」を開き、応募した26人が参加しました。

まず、武蔵村山市の下田農園でミカン狩りをしました。参加者は、急な斜面に苦戦しつつも丁寧に収穫をしました。その後、瑞穂町で5軒のシクラメン農家がならぶシクラメン街道を散策しつつ、栽培現場の見学をしました。最後に、瑞穂町で新規就農者の畑やマルシェの見学を行いました。



ミカンの収穫を楽しむ参加者

いました。参加者からは、就農した理由や農法などについて質問が投げかけられました。

### 2月～3月の日程

- 2・2 (木) 組織・活動検
- 2・8 (水) 農委会活動研
- 2・10 (金) 組織・活動検
- 2・17 (金) 理事会
- 2・17 (金) 常設委員会
- 2・17 (金) 大会運営
- 3・2 (木) 農委会大会
- 3・10 (金) 主任職員協
- 3・17 (金) 通常総会
- 3・17 (金) 常設委員会